

第56回春季東北地区高等学校野球大会

6月5日から9日までの日程で、福島県福島市を会場に、第56回春季東北地区高等学校野球大会が開催されました。

白石工が東北大会に出場するのは25年ぶり。25年前、本格派右腕の日笠投手を擁して、宮城県大会決勝で東北高に1対10で破れたものの準優勝して以来、2度目の出場を果たしました。



▲1回表、キャッチャー小野寺くんの右中間へのヒットで2点を先取

白石工は大会2日目、県営あづま球場の第1試合で、福島第1代表の聖光学院と対戦しました。時折強い雨が降るあいにくの天気。試合開始が2時間遅れの11時に変更となりプレーボール。先攻の白石工は、初回に2点を先取し、1回裏の聖光学院の攻撃も三者凡退で切り抜け、この試合の主導権を握るかと思われました。

しかし、2回裏に2アウト1、2塁から4連打、4点を挙げられ逆転されてしまいました。その後も、3回に4点、4回と5回にも1点ずつを追加。2対10と大きくリードされ、苦しい展開。白石工は2回以降、自慢の打線がつかず、7回コールドで初戦突破を果たせませんでした。

宮城県白石工業高等学校



1963(昭和37)年4月開校。本年6月1日現在、全校生徒678人で、うち女子は50人です。本市からは、246人の生徒が在籍しています。

校章の藤の葉と花房は、郷土の名将、白石城主片倉小十郎公の家紋の一部を表徴したものです。「工高」の力強い文字は、工業立国を標榜するわが国の発展に寄与する、工業高校生の誇りと自覚を示すものです。

機械科、電気科、建築科、工業化学科、設備工業科の5つの工業教科があり、校長以下、81人の教職員が生徒の指導に当たっています。

運動部は、硬式野球のほか全部で16の競技部があり、陸上競技やラグビー、山岳など県内でトップクラスの成績を残しています。校訓は「誠実」で、素直で明るい生徒を育てることを目指しています。

Interview03



長山 大志主将 (3年) 聖光学院に負けたことを真摯に受け止め、夏までもう一度修正してきます。

今日の試合では、自分たちの力を全く出せなかったことが悔しいです。バッティングが課題なので、全員で振り込んで夏の大会では、全員が打率3割以上を目指して頑張ります。

Interview04



高橋 富廣投手 (3年・白石中出身) コントロールが乱れていて、真ん中にボールが集まってしまいました。

夏に向けてコントロールと変化球のきれいをアップさせて、甲子園を目指します。

Interview05



渡部 貴成外野手 (3年・白石中出身) 試合では、バントを失敗してしまい、チームの役に立つことができませんでした。

夏までに、バッティングの調子を上げていきたいと思っています。夏の大会では、チーム一丸となって全国制覇を目指して頑張ります。

Interview06



佐藤 拓人外野手 (2年・白石東中出身) 今日は全然打てなくて、東北大会のレベルの高さを思い知らされました。

夏に向けて、基本からすべてやり直したいと思います。甲子園予選では、一戦一戦大事に戦っていききたいと思っています。

Interview07



佐々木 聖也内野手 (3年・福岡中出身) 聖光学院は強かったです。課題はたくさんありますが、ひとつひとつ乗り越えて甲子園出場を目指して頑張ります。

聖光学院は強かったです。課題はたくさんありますが、ひとつひとつ乗り越えて甲子園出場を目指して頑張ります。

Interview08



白石工業高等学校 野球部監督 甲斐 裕規さん

初めての舞台で、どうしても良いか分からなかったのだと思います。

これから夏の甲子園予選に向けて、投手力を整備してチャンスに一本打てる打撃力を付ける必要があります。夏に向けて、ひとつひとつのプレーを100パーセント成功させられるように、頑張っていくしかないと思います。



△雨にもかかわらず、精一杯の応援が続きました。

Interview01



白石工業高等学校 校長 佐々木 太さん

東北大会は残念な結果でしたが、今回の負けを糧として緊張感に負けずに頑張ってくださいと思います。

夏の甲子園予選では、南部地区大会のようにのびのびとしたプレーをして、接戦をものにする野球を見せてくれると信じています。

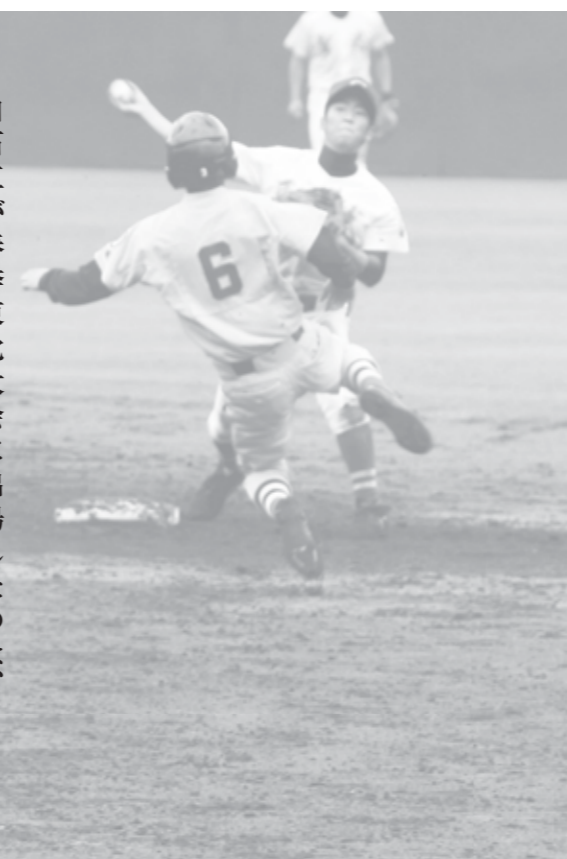
Interview02



白石工業高等学校 野球部長 石垣 勝さん

夏の甲子園予選に向けてピッチャーの整備と、ボールに食らいつくバッティングで、つながりのある打線をつくり上げていきたいと思っています。

第3シードであることでのプレッシャーがかからない状態で、乗り切っていきたいと思っています。



白石工が春季東北大会に出場したのは、1984(昭和59)年大会に続き2度目となります。この年は、本格派右腕の日笠投手を擁して決勝まで進出。決勝では、残念ながら金足農(秋田県)に0対6で負けてしまいました。

この年の金足農は、水沢投手を擁して秋田県高校野球史上で最強と言われていました。夏の甲子園大会に秋田県代表で出場し、準決勝で桑田選手と清原選手のPL学園に、1点差で惜しくも敗れています。

過去、夏の甲子園予選でシード校として出場した大会では、いずれも一回戦で敗退というジンクスがあります。このジンクスを打ち破り、甲子園出場の夢をかなえてほしいと思います。市民の皆さん、夏の甲子園に挑む白石工野球部の応援、よろしくお願いします!

頑張れ! 白石工ナイン!